

待を受けた子どものケアや組織管理等についてトレーニングを受ける仕組みを創設する。

業績一覧

奥山眞紀子

A 誌上発表

1、学術論文

奥山眞紀子：学校での子ども虐待防止。 精神科臨床サービス 7 (1) : 97-100、2007

奥山眞紀子：子どもを代理とするミュンヒハウゼン症候群。 小児内科 39 (5) : 701-704、2007

奥山眞紀子：意図的な傷害行為への取り組み。小児内科 39(7) : 1031-1034、2007

奥山眞紀子：性虐待のもたらすものと治療的介入。 精神療法 33(2) : 150-156、2007

奥山眞紀子：若年者の性の問題－性的被害を中心に－。 精神科治療学 22(1) : 1257-1263、2007

奥山眞紀子：乳幼児揺さぶられ症候群。 小児科臨床 60(4) : 611-616、2007

奥山眞紀子：精神保健疾患（虐待など）の世代間伝達。 小児科 48(5) : 522-526、2007

奥山眞紀子：アタッチメントトラウマ問題。 里親と子ども 2 : 33-39、2007

藤原武男、奥山眞紀子、松本務、有瀧健太郎、余谷暢之、宮坂実木子、仁科幸子：2歳未満児の虐待による頭部外傷の診断基準の提案。 日本小児科学会雑誌 (in press)

Okuyama, M. : Child Abuse in Japan : Current problems and future perspectives. : JMAJ49 (11・1 2) 2006 : 370-374. 9. 3-6

藤原武男、奥山眞紀子、石井徹仁。 医療機関における子ども虐待データベースの構築。 日本小児科学会雑誌, 2006.110(7) : 926-933

奥山眞紀子：外傷後ストレス障害，小児科診療増刊号。 2006 ; 69:920-923

奥山眞紀子：子どもの虐待， 実践救急医療（日本医師会雑誌特別号）。 2006 ; 135:291-294

奥山眞紀子：問題行動（性的逸脱、反社会行動）， 今日の小児治療指針。 2006 ; 14:537

奥山眞紀子：虐待が子どもにもたらす影響， 児童虐待の早期発見と対応。 2006 ; 35:41

奥山眞紀子：虐待の早期発見法とその対応， 小児科臨床。 2006 ; 59・4 : 756 (202) -762 (208)

奥山眞紀子：虐待予防における分娩機関の役割， 周産期医学。 2006 ; 36・8 : 951-955

奥山眞紀子：子ども虐待， 周産期医学 増刊号 周産期医学必修知識第6版， 2006 : 26-927

奥山眞紀子：XVII.精神疾患 341. 睡眠障害，小児内科 増刊号 小児疾患の診断治療 準 第3版，2006：752-753

奥山眞紀子：保健活動と虐待死の予防—児童虐待による死亡事例の検証から—，保健の科学. 2006；48（9）：689-693

奥山眞紀子：親子再統合の意味とその支援，母子保健情報 2005；50号：147—150

奥山眞紀子：虐待を受けた子どものトラウマと愛着，トラウマティック・ストレス 2005；3：3-11

奥山眞紀子：虐待を受けた子どものPTSDとトラウマケア，看護技術 2005；51：40-43

奥山眞紀子：愛着障害の治療，精神科治療学 2005；20 増刊号「精神科治療ガイドライン」：294-297

奥山眞紀子：子ども病院におけるリエゾン精神医学，児童青年精神医学とその近接領域 2005；46：79-89

奥山眞紀子：思春期の性被害・性加害—思春期におこりやすい問題とその対応—，小児科診療 2005；68：1067—1074

奥山眞紀子：児童虐待の分類と概要，小児科診療 2005；68：208—214

奥山眞紀子：虐待臨床から，小児の精神と神経 2005；45：322-325

2、著書

奥山眞紀子：PTSD の診断と治療の選択は？ 五十嵐隆、石井正浩、滝田順子、平岩幹男、水口雅、横田俊平、横谷進、渡辺とよ子 編集 「EBM小児疾患の治療 2007-2008」 pp578-583、中外医学社；東京、2007. 2. 1

奥山眞紀子：性的虐待へのケアと治療。 浅井春夫 編著 「子どもと性」 pp248-257 広田照幸監修 リーディングス 日本の教育と社会⑦ 日本図書センター；東京、2007. 6. 25

奥山眞紀子：こどものうつとは？ 奥山眞紀子、氏家武、原田謙、山崎透 編著 「子どものうつハンドブック—適切に見立て、援助していくために」 pp21-38、診断と治療者；東京、2007. 4. 10

奥山眞紀子：虐待について教えてください。 五十嵐隆 編集 「小児ケア Q&A」pp180-181、総合医学社；東京、2007. 5. 24

奥山眞紀子：子どもの心理社会的状況の把握。コラム MSBP。コラム子どもの死の概念。 奥山眞紀子 編集 「病気を抱えた子どもと家族の心のケア」 pp14-19、80-81、164、日本小児医事出版社；東京、2007. 11. 6

奥山眞紀子：被虐待児。 行岡哲男、太田祥一 編集 山本保博 監修「救急医療の基本と実際 精神・中毒・災害」 pp103-108、荘道社；東京、2007. 12. 25

奥山眞紀子：外傷後ストレス障害，東京医学社. 2006；38：99-101

奥山眞紀子：子どもの虐待—ネグレクトおよびドメスティックバイオレンスについて—，健康教室 2005；第650集：86—89

奥山眞紀子：Shaken Baby Syndrome，坂井聖二，奥山眞紀子，井上登生編：子ども虐待の臨床—医学的診断と対応— 2005.1：99—105 南山堂；東京

奥山眞紀子：性的虐待とその所見，坂井聖二，奥山眞紀子，井上登生編：子ども虐待の臨床—医学的診断と対応— 2005.1：211—234 南山堂；東京

奥山眞紀子：性的虐待の現状と支援の課題，日本家族心理学会編 家族間暴力のカウンセリング 2005.5：85~100 金子書房；東京

奥山眞紀子：子どもの自立支援の理念について，児童自立支援対策研究会編：子ども・家族の自立を支援するために—子ども自立支援ハンドブッカー，2005.6 PP14~32 児童福祉協会；東京

奥山眞紀子：虐待をいかに防止するか—落とさないネットワークの構築に向けて，児童虐待—防止のためのポイント 2005.6.30 PP156~166 年友企画株式会社；東京

奥山眞紀子：トラウマについて教えてください、PTSDについて教えてください、解離性障害について教えてください、虐待を受けた子どもとのかかわり方について教えてください、思春期の子どもとのかかわり方について教えてください、性の問題にはどのように対処したらいいですか？，庄司順一編：Q & A 里親教育を知るための基礎知識 2005.8；PP176~183、PP226~235 明石書店；東京

奥山眞紀子：子供虐待，第8章 子供の心の治療の新しい流れ 先端医療シリーズ 34 小児科の新しい流れ 2005.6.3；PP193~197 先端医療技術研究所；東京

奥山眞紀子：協編著 子ども・家族への支援計画を立てるために—子どもの自立支援計画ガイドライン 児童自立支援計画研究会編 2005.6 児童福祉協会

奥山眞紀子：子ども虐待の現状，薬の知識 2005；.56：1—3 ライフサイエンス出版

奥山眞紀子：性的虐待について，薬の知識 2005；56：16—17 ライフサイエンス出版

奥山眞紀子：北米における子供虐待対応の流れと現在，MMJ 9月号 (The Mainichi Medical Journal) 毎日新聞社 2005.9.15 P 527

奥山眞紀子：被害を受けた子どもへの対応—子どもを守る社会を望む，インタビュー 季刊セクシュアリティ (No.21) 2005.4.15 P P 46~53

口演

1. 学会発表

Okuyama M & Fujiwara T “Current Efforts of Child Abuse Prevention in Japan” (oral presentation) 21th Annual San Diego International Conference on Child and Family Maltreatment, San Diego, CA, USA, January 23 (22-26), 2007

奥山眞紀子 「”子どもと共に生きる社会”の視点からの提言」(シンポジスト) 第1回日本小児医療政策研究会 東京(ホテル ヴィラフォンテーヌ汐留) 2007.2.17

奥山眞紀子 「トラウマ研究はどこにむかっているか」(オープニングディスカッション) 第6回トラウマティック・ストレス学会 東京(武蔵野大学) 2007.3.9 (9-10)

都丸文子、奥山眞紀子「性的被害を受けた女兒の加害児との和解のプロセスの一経験」(一般シンポジウム) 第6回トラウマティック・ストレス学会 東京(武蔵野大学) 2007.3.10 (9-10)

奥山眞紀子 「子どもを虐待から守る社会をめざして」第26回日本社会精神医学会ランチョンセミナー 横浜市(横浜市開港記念館) 2007.3.23 (22-23)

奥山眞紀子、藤原武男、松本務、有瀧健太郎、余谷暢之「医療機関における子ども虐待(SCAN)チームの有用性の検討」(一般口演) 第110回日本小児科学会学術集会 京都(京都国際会館) 2007.4.21 (20-22)

奥山眞紀子 「愛着とこころの発達」(パネルディスカッション「動く「こころ」を読む - 医学の原点、こころを探す旅 - 第27回日本医学会総会 大阪(大阪国際会議場・リーガロイヤルホテル・ホテルニューオータニ大阪) 2007.4.8 (6-8)

奥山眞紀子 「医療現場から」共同研究「児童虐待防止に向けて」パネリスト 日本被害者学会第18回学術大会 草加市(獨協大学天野貞祐記念館) 2007.6.9

長田由貴子、奥山眞紀子、泉真由子「母親のDV体験と子どもの精神保健～母子生活支援施設での調査から～」(一般口演) 第97回日本小児精神神経学会 東京(青山学院大学青山キャンパス) 2007.7.1 (6.30-7.1)

奥山眞紀子 「子どもの心の診療体制の構築について～発達障害/ADHDを中心に」ランチョンセミナー 第49回日本小児神経学会総会 大阪(グランキューブ大阪 大阪国際会議場) 2007.7.6 (5-7)

Okuyama, M, Fujiwara T, Matsumoto, T et al. "Proposed Diagnosis Criteria for Inflicted Head Injury of Children Younger than Two Years of Age" (Oral Presentation) ISPCAN (International Society for Prevention of Child Abuse and Neglect) VII Asian Regional Conference September 25 (23-26), 2007 Manila, Philippine

Okuyama M "Adolescent Medicine in Japan" (invited lecture) the 57th Korean Pediatric Society Annual Congress October 19 (19-20), 2007 Seoul, Korea

Okuyama M, Izumi M, Fujiwara T & Osada Y "The Impact of DV and the Mothers' Maltreated experience of Children" (New Research Poster Session) AACAP (American Academy of Child and Adolescent Psychiatry) 54th Annual Meeting October 25 (23-28), 2007, Boston, MA, USA

奥山眞紀子 「子どもの司法面接」(パネラー) 第48回児童青年精神医学総会 岩手県盛岡市 2007.11.1 (10.30-11.1)

奥山眞紀子 「子ども虐待の発見と防止」(講演) 第4回京都小児救急疾患研究会講師 京都(ウェスティン都ホテル京都) 2007.11.10

奥山眞紀子 「思春期の子ども」(講演) 第32回東日本小児科学会 東京(東京大学安田講堂) 2007.11.23

奥山眞紀子、藤原武男、長田由貴子、松本務、有瀧健太郎、余谷暢之、野坂俊介、宮坂美木子、仁科幸子 「虐待による頭部外傷」(一般口演) 日本子ども虐待防止学会 第13回学術集會みえ大会 三重県総合文化センター・アストプラザ・ホテルグリーンパーク津 2007.12.15 (14-15)

実方由佳、奥山眞紀子、笠原麻里「Munchausen Syndrome By Proxy の症例における〔接近困難性〕に対する一考察」(一般口演) 日本子ども虐待防止学会 第13回学術集會みえ大会 三重県総合文化センター・アストプラザ・ホテルグリーンパーク津 2007.12.15 (14-15)

奥山眞紀子 「DV被害後の母子関係再構築への支援」(シンポジウム) 日本子ども虐待防止学会 第13回学術集會みえ大会 三重県総合文化センター・アストプラザ・ホテルグリーンパーク津 2007.12.15 (14-15)

奥山眞紀子:「特殊な虐待とその対応—性的虐待・MSBP—」日本小児科学会東京都地方会話会 帝京大学大講堂 2006.7.8

奥山眞紀子:「小児科における現状と今後の展望」シンポジスト 第102回日本精神神経学総会 福岡国際会議場 2006.5.11

奥山眞紀子:「小児神経疾患における精神医学」 第48回日本小児神経学会 教育講演 東京ベイホテル東急 2006.6.2

泉真由子、奥山眞紀子:「施設入所中の子どもにおける被虐待経験の有無と背景要因の関係の検討」 第95回日本小児精神神経学会 東京 2006.6.17

奥山眞紀子:「子どもの心の専門家を育てるために」 第47回日本児童青年精神医学会総会(シンポジウム). 千葉市. 2006.10.18

奥山眞紀子:「医師の育成について」 シンポジウム「子どものメンタルヘルスを担う人材を育てる」 第53回日本小児保健学会 2006.10.27、甲府市

Okuyama, M.: Twenty-one MSBP cases in Japan. XVIth ISPCAN International Congress on Child Abuse and Neglect. York,UK. 2006.9.3-6.

Fujiwara, T., Okuyama, M., Izumi, M.: Distribution of Number of Risk Factors for Child Maltreatment by its Susceptibility. XVIth ISPCAN International Congress on

Child Abuse and Neglect. York,UK.. 2006. 9. 3-6.

Fujiwara, T., Okuyama, M., Izumi, M. : Sensitivity, Specificity, and Odds Ratio of Multiple Risk Factors Score to Distinguish Child Maltreatment. XVIth ISPCAN International Congress on Child Abuse and Neglect. York,UK.. 2006. 9. 3-6.

Fujiwara, T., Okuyama, M., Ishii, T., Koenen, KC : Small for Gestational Age as a Risk Factor for Infant Maltreatment. International. Family Violence and Child Victimization Research. York,UK.. 2006. 9. 3-6.

2. 一般講演

奥山眞紀子 「虐待について」平成 18 年度広島県児童思春期精神保健事例検討ワークショップ 講師 広島県立生涯学習センター 2007. 1. 13

奥山眞紀子 「子ども虐待の臨床—医学的診断と対応」 平成 18 年度児童虐待防止研修会 埼玉県医師会 埼玉県県民健康センター 2007. 1. 18

奥山眞紀子 「子ども虐待の臨床—医学的診断と対応」 平成 18 年度児童虐待防止研修会 埼玉県医師会 埼玉県県民健康センター 2007. 2. 4

奥山眞紀子 「学校での性被害」 NPO 法人千葉こどもサポートネット第 5 回勉強会 市川市生涯学習センター 2007. 2. 24

奥山眞紀子 「配偶者からの暴力と子どもへの影響—その実態と支援—」 中野区男女共同参画センター事業講習会 中野区男女共同参画センター研修室 2007. 3. 31

奥山眞紀子 「児童虐待の現状と地域ネットワーク」平成 19 年度県民福祉講座 「緑陰大学」 鳥取県社会福祉協議会 2007. 5. 21

奥山眞紀子 「性的虐待の実態、背景、その発見、面接方法と司法的関与」

金沢弁護士会犯罪被害者支援委員会研修会講師 金沢市観光会館 2007. 6. 15

奥山眞紀子 「DV 被害・児童虐待を受けた母子への支援姿勢を学ぶ～母子生活支援施設利用者の現状から～」第 29 回全国母子生活支援施設職員研修会 ウィリング横浜 2007. 6. 22

奥山眞紀子 「子どもの虐待の早期発見に向けて」第 9 回小児のこころと身体の健康フォーラム 帝京大学病院 734 教室 2007. 6. 23

奥山眞紀子 「行動障害、うつ、自殺等思春期に起きやすい左記の問題に関する診断と対応」日本小児科学会主催：思春期医学臨床講習会 東京大学山上会館 2007. 6. 30

奥山眞紀子 「子どもの虐待基礎知識」「性的虐待・子どもへの聞き取りの原則」

NPO 法人 女性の安全と健康のための支援教育センター 2007 年 7 月研修講座

明治乳業本社 2007. 7. 8

奥山眞紀子 「子どもを“被害”と“加害”の危険から守るために」日本小児科学会プレスセミナー 東京會館 2007. 7. 17

奥山眞紀子 「虐待に対する院内ネットワークの実際—国立成育医療センターにおける活動」平成 19 年度認定看護師専門課程 国立成育医療センター 2007. 8. 24

奥山眞紀子 「虐待を受けた思春期児童の自己感の形成について」平成 19 年度全国児童自立支援施設中堅職員研修 国立武蔵野学院 2007. 9. 11

奥山眞紀子 「地域における世代間交流と高齢者ケア～日米の事例から～」公開セミナーのパネラー 聖路加看護大学内 2007. 10. 13

奥山眞紀子 「虐待臨床から見たこころとからだ」グラクソ・スミスクライン(株) こころとからだの勉強会 B I Z 新宿 2007. 10. 17

奥山眞紀子 「性的虐待の心身におよぼす影響」平成 19 年度虐待対応研修子どもの虹研修センター 2007. 11. 7

奥山眞紀子 「性的虐待を受けた子どもへの援助について～性的虐待がもたらす精神的問題について～」平成 19 年度児童相談所専門性強化研修事例検討研修セミナー 千葉県市川児童相談所 2007. 11. 9

奥山眞紀子 「虐待防止に対する組織としての取り組み」東京北社会保険病院研修会 東京北社会保険病院講堂 2007. 12. 19

奥山眞紀子：「前思春期児童の性暴力被害：発生頻度、症状と治療」国際シンポジウム[犯罪被害・人為災害と PTSD] 主催 東京医科歯科大学 上智大学四谷校舎講堂。東京。2006. 2. 25

奥山眞紀子：「児童虐待の早期発見と対応」第 49 回横浜市東部小児科医会 横浜労災病院。横浜市。2006. 5. 25

奥山眞紀子：「精神科医から見た現代のこどもたち」全国児童養護問題研究会 全国大会記念講演 国立オリンピック記念青少年センター。東京。2006. 6. 30

奥山眞紀子：「子の障害、疾病、問題行動から見える児童虐待について」東京家庭裁判所八王子支部調査官研究会 2006. 7. 7

奥山眞紀子：「子どもの虐待基礎知識」（午前）支援者のための基礎講座
「性的虐待・子どもへの聞き取りの原則」（午後）支援者のための専門講座
NPO 法人女性の安全と健康のための支援教育センター 2006. 7. 9

奥山眞紀子：「性的虐待を受けた子どもに対する面接技法」静岡県東部健康福祉センター主催 静岡県男女共同参画センター。静岡市。2006. 7. 13

奥山眞紀子：子どもの口の中を診て”虐待”を疑ったら—歯科医師としての義務と対応
平成 18 年度麻布赤坂歯科医師会 公衆衛生講演会。南青山。

2006. 7. 19

奥山眞紀子：虐待が子どもの心理的発達に与える影響について，日本弁護士連合会

2006年夏合宿．東京都．2006. 8. 28

奥山眞紀子：愛着障害，東京都児童相談所職員研修．新宿区．2006. 10. 5

奥山眞紀子：PTSD，平成18年度こころの健康づくり対策研修会．東京都．

2006. 11. 1

奥山眞紀子：愛着障害の理解と支援，第4回児童虐待防止専門化講座．佐賀市．

2006. 12. 14

奥山眞紀子：教育現状で必要な発達障害児への対応法について，千葉大学教育学部教育現場における障害児への対応に関する講習会．千葉市．2006. 12. 20

奥山眞紀子：DV被害・児童虐待を防止するために一母子生活支援施設関係者にできること一．第50回全国母子生活支援施設研究大会（特別講演）．渋谷区．

2006. 10. 20

中村文子、笠原麻里、奥山眞紀子他：Munchausen Syndrome by Proxy（MSBP）21例（20家族）に関する検討，第93回日本小児精神神経学会 東京都 2005. 6. 25

泉真由子・奥山眞紀子：虐待を受けた幼児の行動チェックリストの開発とその分析，第46回日本児童青年精神医学会総会 神戸市 2005. 11. 11

奥山眞紀子：指定討論 シンポジウム「愛着障害を考える」第15回日本乳幼児医学・心理学学会 東京都 2005. 11. 19

奥山眞紀子：虐待臨床から，シンポジウム「子どものこころの臨床における発達について再考する」第93回日本小児精神神経学会 東京都 2005. 6. 25

奥山眞紀子：慢性疾患を抱えた子どもの心の問題，第39回日本小児内分泌学会ランチョンセミナー 東京都 2005. 10. 21

奥山眞紀子：愛着—トラウマ問題と自己感の発達，シンポジウム「子どもの環境—その関係性と発達を科学する—」第7回子どもの心・体と環境を考える会 学術大会 東京都 2005. 12. 3—4

奥山眞紀子：虐待を受けた子どものケア，日本保育学会自主シンポ 東京都（大妻学園）2005. 5. 22

奥山眞紀子：子どもへの性的虐待の現状と対応，栃木県精神保健福祉センター主催 電話相談員並びに相談従事者研修会 栃木県 2005. 1. 7

奥山眞紀子：小児精神と健康障害・児童虐待；埼玉県立小児医療センター 看護部研修会 岩槻市 2005. 1. 28

奥山眞紀子：児童虐待の現状と課題について，静岡県医師会第3回母子保健講習会講師 静

岡市 2005. 2. 5

奥山真紀子：心理的虐待，NPO 法人埼玉子どもを虐待から守る会セミナー さいたま市
2005. 2. 20

奥山真紀子：ミュンチハウゼン症候群，松本児童相談所研修会 松本市 2005. 2. 26

奥山真紀子：性的虐待 まつもと子ども虐待ネット研修会 松本市 2005. 4. 16

奥山真紀子：虐待を受けた子どもの心～医療機関と地域の連携～ 世田谷区第3回子育て
支援会議 世田谷区 2005. 2. 24

奥山真紀子：子どものこころの問題—診療のシステム作りと医師の育成について，小児科
産科若手医師の確保・育成に関する研究班 東京都 2005. 3. 19

奥山真紀子：乳幼児に求められるアセスメント—乳幼児の個別対応に必要なアセスメント
— 全国乳児院協会関東ブロック大会 群馬県 2005. 6. 10

奥山真紀子：医療における虐待の発見，香川小児病院研修会，善通寺市 2005. 6. 16

奥山真紀子：医療における虐待対応，香川県西讃小児科医会学術講演会，丸亀市 2005. 6.
16

奥山真紀子：親からの虐待を受けて育つ子ども・DVを見て育つ子ども、心身への影響に
ついて～私たち医療者が早期発見に役立てられるサインとは～「女性や子どもへの暴力」
への取り組み研修会 江戸川区 2005. 6. 21

奥山真紀子：DV と子ども虐待，性的虐待・子どもへの聴き取りの原則，NPO 法人女性の
安全と健康のための支援教育センター研修講座 江東区 2005. 7. 9

奥山真紀子：虐待者のメンタルサポートと包括的支援のあり方 第7回小児精神医学教育
セミナー JSPP 教育セミナー 札幌市 2005. 8. 27-28

奥山真紀子：性的虐待を受けた子どもの心理的ケア 明治安田生命こころの健康財団集中
講座「虐待臨床の最前線」 大阪市 2005. 9. 11

奥山真紀子：地域における虐待予防—保健師の役割—，埼玉県児童虐待予防専門研修会、
さいたま市 2005. 10. 13

奥山真紀子：発達障害の早期発見，愛宕小児科医会，東京都（慈恵医大）2005. 11. 12

奥山真紀子：性的虐待の現状，長岡市子どもの虐待防止ネット 長岡市 2005. 11. 23

奥山真紀子：児童虐待の防止のために私たちにできること，厚木市医師会講演会 厚木市
2005. 12. 10

奥山真紀子：性的虐待を受けた子どもへの面接法 埼玉県児童相談所研修会 2005. 12. 16

奥山真紀子：愛着障害の治療，親と子の心の対話研究会 久留米市 2005. 12. 17

奥山真紀子：児童虐待の臨床—ネグレクトと性的虐待を中心に—，大牟田児童相談所児童
虐待防止セミナー 大牟田市 2005. 12. 18

青木豊

A、誌上発表

1、論文

Cheng, S., Kondo, N., Aoki, Y., Kitamura, Y., Takeda, Y., & Yamagata, Z. : The effectiveness of early intervention and the factors related to child behavioral problems at age 2: A randomized controlled trial. Science Direct. 83, 683-691. 2007

青木豊、松本英夫：愛着研究・理論に基礎付けられた乳幼児虐待に対するアプローチについて、児童青年精神医学とその近接領域、47(1)、1-15. 2006

青木豊：乳幼児の愛着障害、小児内科、38(1)、42-45、2006

2、著書

青木豊：愛着障害、里親と子ども、2、61-69. 2007

青木豊：愛着障害、日本医事新報、4326、70-72. 2007

青木豊：表象志向的乳幼児一親精神療法・心理療法、こころの臨床 a・la・carte、26 (3) 485-489. 星和書店 2007

青木豊：乳幼児の精神疾患、上島ら編、「精神医学の基礎知識」、260-280、誠信書房、2007

B、口演

1、学会発表

安部慎吾、青木豊、南山今日子、芝太郎 被虐待乳幼児に対する愛着に方向付けられた養育プログラムについて—乳児院及び児童養護施設における試み。第 13 回日本子どもの虐待防止学会、p14.、2007

芝太郎、青木豊、南山今日子、安部慎吾：施設における被虐待乳幼児の特長についての研究。第 13 回日本子どもの虐待防止学会、p14. 2007

青木豊、南山今日子、芝太郎、阿部伸吾、奥山眞紀子、松本英夫：愛着行動チェックリストの信頼性・妥当性の準備的検討、第 17 回乳幼児医学・心理学会、p11. 2007

青木豊：反応性愛着障害の概念と変遷—シンポジウム愛着障害を考える、第 15 回日本乳幼児医学・心理学会、2005

青木豊：被虐待乳幼児・児童に対する愛着に焦点を当てた治療について—シンポジウム虐待を受けた子どもの治療 第 4 回トラウマティック・ストレス学会シンポジウム、54. 2005

寺岡菜穂子、青木豊、井上美鈴、大園啓子、木村友昭、松本英夫：乳幼児の問題行動と関連する諸因子についての検討、第 46 回日本児童青年期精神医学会総会、2005

2、一般講演

青木豊：「育兒と愛着とその障害」 特別講演 第 9 回東北児童青年精神医学会、2007

大屋彰利、渥美真理子、青木豊、小石誠二、猪股丈二、松本英夫：自閉症の初期兆候—評価表を用いて—、第46回日本児童青年期精神医学会総会、2005

八賀薫、青木豊、寺岡菜穂子、大園啓子、猪俣誠司、井上美鈴、木村友昭、松本英夫：愛着障害の診断法 Disturbance of attachment interview 日本語版及び Clinical observation assessment について、第46回日本児童青年期精神医学会総会、2005

安部計彦

B、口演

1、学会発表

安部計彦「児童相談所一時保護所の現状と課題（その2）」日本子ども家庭福祉学会、2007年6月10日、大阪大谷大学

安部計彦「児童虐待と学校ソーシャルワーク」日本学校ソーシャルワーク学会、2007年6月17日、大阪教育会館

安部計彦「児童虐待相談減少の可能性」日本子ども虐待防止学会、2007年12月15日、三重県総合文化センター

小野善郎

A、誌上発表

1、論文

小野善郎：地域での子育てと児童相談所の役割。教育と医学、55(2)：117-124, 2007.

小野善郎：子どもの心理的虐待の概念・定義と精神医学的意義。児童青年精神医学とその近接領域、48(1)：1-20, 2007.

小野善郎：児童福祉における精神科医の役割。臨床精神医学、36(5)：527-531, 2007.

小野善郎：養育の破綻—児童福祉に守られる子どもたち—。こころの科学、No. 134, 55-60, 2007

小野善郎：児童福祉領域における精神科医の役割。子どもの虐待とネグレクト、9(3)：345-350, 2007.

2、著書

Andres J. Pumariega & Nancy C. Winters (編)、小野善郎(監訳)：児童青年の地域精神保健ハンドブック—米国におけるシステム・オブ・ケアの理論と実践—。明石書店、東京、2007.

加藤囀子

A、誌上発表

1、論文

加藤曜子：「児童虐待防止ネットワークから要保護児童対策地域協議会移行期における課題」流通科学大学論集、人間・社会・自然編、2008年1月発行予定

加藤曜子：「児童虐待防止法改正にあたって一民間団体の立場から」少年育成、2007年4月 第613号, 30-36.

加藤曜子：市町村ネットワーク（要保護児童対策地域協議会）多機関間会議—実務者会議を中心に考える 「流通科学大学論集」人間・社会・自然編 第19巻第3号 2007年3月 29-42.

2、著書

加藤曜子「民間団体と児童虐待防止」 津崎哲郎「児童虐待レポート—最前線からの報告」予定、ミネルヴァ書房、2008年 5月発行予定 マニュアル 要保護児童対策地域協議会（市町村虐待防止ネットワーク）個別ケース検討会議のための 在宅アセスメントシート指標シートマニュアル（改訂版）2007年3月

B、口演

2、一般講演

第8回全国児童家庭支援センター研究協議会高知大会

講演「ネットワークと児童家庭支援センターのあり方」平成19年9月11日

地域子育て支援ネットワーク研修会 徳島県 平成19年3月

講演「育児不安家庭を機関連携でサポートする子育て支援ネットワークの構築」

児童虐待防止講演会 ながの子どもを虐待から守る会主催 平成19年9月8日

「今、地域は子どもを虐待から防ぐために何ができるか？」

平成19年度児童虐待対応職員研修 秋田県 平成19年6月4日 「要保護児童対策地域協議会の意義と運営について」

虐待防止月間記念講演会 大阪市 平成19年11月「児童虐待予防は地域を守る地域ネットワークから」

加藤曜子：児童虐待防止ネットワークの意義 加古川市. 平成18年2月14日

加藤曜子：児童虐待防止ネットワークから要保護児童対策地域協議会へ和歌山有田振興局主催. 平成18年3月

加藤曜子：虐待アセスメントについての視点. 愛媛県児童相談所. 平成18年2月

加藤曜子：市町村ネットワークにおける在宅アセスメント. 大阪府・児童虐待防止協会. 平成18年11月

加藤曜子：市町村のためのアセスメント. 愛知県. 平成18年9月

加藤曜子：要保護児童連絡調整会議個別ケース検討会議のための在宅アセスメントシート

利用について。門真市要保護児童連絡調整会議対象の講演。平成18年2月

加藤曜子：児童虐待防止ネットワーク アセスメントからサービスへ。東大阪市健康福祉部主催。平成17年10月4日

佐藤拓代

A、誌上发表

2、著書

佐藤拓代：虐待とその予防—周産期医療の視点から。周産期医学、発行予定

佐藤拓代：虐待予防と親支援—保健所からのレポート。児童虐待レポート—最前線からの報告、ミネルヴァ書房。発行予定

佐藤拓代：保健分野のアセスメントと虐待像。子どもの虐待とネグレクト、発行予定

Takuyo SATO, Noriko MENJU: Attempt to Prevent Child Abuse Through Parent (Mother) Classes at Health Service Centers in Japan, 8th World Congress of Perinatal Medicine, 261, 2007

藤江芳子、佐藤拓代：虐待予防を目指した2か月親子講習会の効果～1歳6か月児健診までのフォロー～。日本公衆衛生雑誌, 54(10) : 348, 2007

佐藤拓代：予防のためのアセスメント。保健の科学、49(1) : 55, 2007

B、口演

1、学会発表

Takuyo SATO, Noriko MENJU: 8th World Congress of Perinatal Medicine, Attempt to Prevent Child Abuse Through Parent (Mother) Classes at Health Service Centers in Japan

佐藤拓代、毛受矩子：第48回日本母性衛生学会発表、子ども虐待予防のための保健センター(母)親教室運営ガイド 2007

佐藤拓代：第54回日本小児保健学会発表、虐待予防のための集团的支援～2ヶ月親子講習会の効果～ 2007

桑田俊子、佐藤拓代：第46回日本公衆衛生学会近畿地方会発表、保健センターにおける子ども虐待へのシステムの支援 2007

藤江芳子、佐藤拓代：第66回日本公衆衛生学会発表、虐待予防を目指した2か月親子講習会の効果—1歳6か月児健診までのフォロー— 2007

2、一般講演

佐藤拓代：19.4.24 大阪府主催：市町村保健師現任研修。保健師活動における虐待予防への取り組みとリスクアセスメント

佐藤拓代：19.6.29 福井県坂井・福井・奥越・丹南保健所主催：児童虐待防止専門研修。子ども虐待の予防・発見・防止～自らは支援を求めない親にこそ支援を～

佐藤拓代：19.7.25 京都府乙訓保健所主催：児童虐待未然防止体制強化研修。児童虐待防止における母子保健の役割

佐藤拓代：19.8.8 児童虐待防止協会主催：児童虐待防止協会オープン講座。乳幼児虐待

の早期発見と母子保健

佐藤拓代：19. 8. 31 福岡市主催：家庭訪問事業に従事する職員研修。児童虐待のリスクアセスメント

佐藤拓代：19. 9. 5 子どもの虹情報研修センター主催：地域虐待対応等合同研修。アセスメントについて

佐藤拓代：19. 9. 28 大阪市主催：母子保健保健師研修。妊娠期からの子ども虐待予防

佐藤拓代：19. 11. 7 子どもの虹情報研修センター主催：治療機関・施設専門研修。ネグレクト

佐藤拓代：第 52 回小児保健学会シンポジウム 小児保健の最近の動向「地域における子ども虐待の予防」2006

白川美也子・山崎知克

A、誌上発表

1、論文

白川美也子；被虐待歴をもつ親の育児支援-DESNOS の理解から一, 保健の科学, vol. 48, 923-929, 2006

山崎知克, 白川美也子：児童青年期の統合失調症, 小児疾患の診断治療基準, 小児内科(38)増刊号, 2006

白川美也子：性的虐待の初期対応, 小児科臨床 60(4), 595-603, 2007

山崎知克：乳児院における親支援について [乳児保育 154: 5-8, 2006, 全国乳児福祉協議会]

山崎知克：乳児院における関わりの難しい保護者への対応マニュアルに関する研究調査. 平成 18 年度児童関連サービス調査研究事業報告, 財団法人こども未来財団, 2007,

2、著書

「DV・虐待にさらされた子どもの心を癒す一母親と支援者のためのガイド」ランディ・バンクロフト著, 白川美也子, 山崎知克監訳, 明石書店, 2006

B、口演

1、学会発表

山崎知克, 白川美也子, 他：環境療法(Milieu therapy)を実施した強迫性障害の男児例における治療経過, 第 96 回日本小児精神神経学会口演, 宝塚市, 10 月

節家麻理子, 山崎知克, 他：神経性無食欲症の入院治療における検討, 第 96 回日本小児精神神経学会口演, 宝塚市, 10 月

2、一般講演

山崎知克：第 4 回家族ケアフォーラム, 子ども虐待とその周辺「医療機関における家族への

介入と福祉との連携－医療・福祉の可能性と限界－, 東大家族ケア研究会, 東京, 7/14
山崎知克: 第3分科会「子ども虐待における親支援の取り組み」, 厚生労働省 子ども虐待防止推進全国フォーラム, 静岡市, 11/11

杉山登志郎

A、誌上発表

1、1、論文

杉山登志郎、海野千畝子: 性的虐待の治療に関する研究 その1: 男性の性的虐待の臨床的特徴に関する研究. 小児の精神と神経, 47(4), 263-272, 2007.

海野千畝子、杉山登志郎: 性的虐待の治療に関する研究 その2: 児童養護施設の施設内性的虐待への対応. 小児の精神と神経, 47(4), 273-279, 2007.

杉山登志郎: 絡み合う子ども虐待と発達障害. 里親と子ども, 2, 26-32, 2007.

杉山登志郎: 虐待を受けた子どもへの精神医学的治療. 里親と子ども, 2, 92-98, 2007.

杉山登志郎: 非言語性学習障害再考 学習障害概念の再検討をめぐって. 教育と医学, 55(12), 1124-1128, 2007.

杉山登志郎: 高機能広汎性発達障害と子ども虐待. 日本小児科学会雑誌, 111(7), 839-846, 2007.

杉山登志郎: 解離. 日本医事新報, 4342, 73-76, 2007.

浅井朋子、杉山登志郎, 小石誠二, 東誠, 並木典子: 高機能広汎性発達障害の不応行動に影響を及ぼす要因についての検討. 小児の精神と神経, 47(2), 77-87, 2007.

海野千畝子、杉山登志郎: 被虐待児への包括的ケア. 母子保健情報, 55, 79-83, 2007.

杉山登志郎: アスペルガー症候群の診断学的妥当性は、どこまで確立されているのか? 精神医学, 49(6), 578-580, 2007.

杉山登志郎: 発達障害のパラダイム転換. そだちの科学, 8, 2-8, 2007.

杉山登志郎: ライフサイクルと発達障害, 臨床心理学, 7(3), 355-360, 2007.

杉山登志郎、海野千畝子: 子ども虐待による解離性障害への治療. 精神療法, 33(2), 157-163, 2007.

田村立、杉山登志郎: 虐待を受けた子どもの予後. 小児科臨床, 60(4), 751-759, 2007.

Miyahara M, Bray A, Tsujii M, Sugiyama T: Reaction time of facial affect recognition in Asperger's disorder for cartoon and real, static and moving faces. Child Psychiatry and Human Development, 38, 121-134, 2007.

Toyoda T, Nakamura K, Yamada K, Thanseem I, Anitha A, Suda S, Tsujii M, Iwayama Y, Hattori E, Toyota T, Miyachi T, Iwata Y, Suzuki K, Matsuzaki H, Kawai M, Sekine Y, Tsuchiya

K, Sugihara G, Ouchi Y, Sugiyama T, Takei N, Yoshikawa T, Mori N. : SNP analyses of growth factor genes EGF, TGFbeta-1, and HGF reveal haplotypic association of EGF with autism. 1. Biochem Biophys Res Commun, 360(4):715-720, 2007.

Nishimura K, Nakamura K, Anitha A, Yamada K, Tsujii M, Iwayama Y, Hattori E, Toyota T, Takei N, Miyachi T, Iwata Y, Suzuki K, Matsuzaki H, Kawai M, Sekine Y, Tsuchiya K, Sugihara G, Suda S, Ouchi Y, Sugiyama T, Yoshikawa T, Mori N. : Genetic analyses of the brain-derived neurotrophic factor (BDNF) gene in autism. Biochem Biophys Res Commun, 27:356(1), 200-206, 2007.

Sugihara G, Hashimoto K, Iwata Y, Nakamura K, Tsujii M, Tsuchiya KJ, Sekine Y, Suzuki K, Suda S, Matsuzaki H, Kawai M, Minabe Y, Yagi A, Takei N, Sugiyama T, Mori N. : Decreased serum levels of hepatocyte growth factor in male adults with high-functioning autism. Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry, 31(2):412-415, 2007.

杉山登志郎：子ども虐待と発達障害：第4の発達障害としての子ども虐待。小児の精神と神経, 46(1), 7-17, 2006.

海野千畝子、杉山登志郎、服部麻子、大河内修、並木典子、河邊真千子、小石誠二、東誠、浅井朋子、加藤明美：被虐待児童に対する集中アセスメント入院の試み。小児の精神と神経, 46(2), 121-132, 2006.

杉山登志郎：発達障害としての子ども虐待。子どもの虐待とネグレクト, 8(2), 202-212, 2006.

Endo, T., Sugiyama, T., Someya, T. : Attention-deficit/hyperactivity disorder and dissociative disorder among abused children. Psychiatry and Clinical Neurosciences, 60, 434-438, 2006.

服部麻子、杉山登志郎、海野千畝子、並木典子、浅井朋子、東誠、小石誠二、奥山真紀子、笠原麻里：被虐待児の治療効果に関する客観的評価の試み。小児の精神と神経, 46巻4号, p281-284

杉山登志郎：被虐待児症候群。小児内科, 38巻増刊号 p850-851, 2006

杉山登志郎：ADHDと行為障害（非行）。そだちの科学6, 72-79, 2006

杉山登志郎：虐待系の多動性障害とADHDの診断と治療。臨床精神薬理, 9(5), 252-255, 2006.

杉山登志郎：ADHDと行為障害（非行）。そだちの科学6号, 72-79, 2006

杉山登志郎、海野千畝子：精神療法によって愛着の修復は可能か？そだちの科学7号, 113-119, 2006

杉山登志郎：発達障害の理解と対応。精神科看護, 33, 14-19, 2006

杉山登志郎、海野千畝子：虐待に関連するストレス障害とその治療．桃井真理子編：小児虐待医学的対応マニュアル 医療現場で子どもを守るために、真興交易(株)医書出版部、pp153-165. 2006.

Shinohe A., Hashimoto K., Nakamura, K., Tsujii M., Iwata Y., Tsuchiya K. J., Sekine Y., Suda S., Suzuki K., Sugihara G., Matsuzaki H., Minabe Y., Sugiyama T., Kawai M., Iyo M., Kakei N., Mori N.: Increased serum levels of glutamate in adult patients with autism. Progress in Neuro-Psychopharmacology and Biological Psychiatry, 30, 1472-1477, 2006.

杉山登志郎、海野千畝子：精神療法によって愛着の修復は可能か？そだちの科学7, 113-119, 2006

杉山登志郎：アスペルガー症候群の現状．日本臨牀, 65(3) 401-406. 2007

2、著書

杉山登志郎：子ども虐待という第四の発達障害．学研、東京、2007

杉山登志郎：発達障害の子どもたち．講談社新書、東京、2007.

B、口演

1、学会発表

杉山登志郎：高機能広汎性発達障害の周辺．第48回 日本児童青年精神医学会総会、教育講演，盛岡，2007

杉山登志郎：子ども虐待と発達障害．第42回 日本発達障害学会 研究大会 教育講演，山口，2007.

杉山登志郎、浦野葉子：子ども虐待にどう向き合うか．第54回 日本小児保健学会シンポジウム：子ども虐待予防のための保健・医療の連携強化．基調講演．前橋、2007.

田中康雄

A、誌上発表

1、論文

田中康雄：軽度発達障害に対する教育と医療の連携 精神科臨床サービス 第7巻1号 P92-96 2007

田中康雄：発達障害と児童虐待 最新精神医学 第12巻2号 P111-117 2007

田中康雄：家族・家族会・自助グループ 日本臨牀 第65巻3号 P532-537 2007

田中康雄：子どもたちの「生きづらさ」を考える：児童精神医学の視点から 子ども発達臨床研究

創刊号 2007

田中康雄：「連携」するために知るべき，それぞれの実情 LD 研究 第 16 巻 1 号 P16-31
2007

田中康雄：問題行動・精神所見のみかた 小児科臨床別刷 第 60 巻 4 号 P709-715 2007

田中康雄：発達障害のある子どもたちと共に生きる 臨床心理学 第 7 巻 3 号 P313-318
2007

田中康雄：特別支援教育に向けての課題 - 医学が担う学際的役割 -
Jpn. J. Child. Adolesc. Psychiatr
第 48 巻 2 号 P118-123 2007

田中康雄：教育現場における精神科医の役割 臨床精神医学 第 36 巻 5 号 P521-525
2007

田中康雄：注意欠陥多動性状態の問題と対応 最新精神医学 第 12 巻 4 号 P347-354
2007

田中康雄：いわゆる反社会的行動を示す子どもへの対応. 精神科治療学, 21; 265-272, 2006.

田中康雄：虐待された子どもが示す非行・犯罪. 子どもの虐待とネグレクト, 8,
308-316, 2006.

2、著書

田中康雄：ADHD(注意欠陥多動性障害) へるす出版 第 30 巻第 9 号 P1253-1261 2007

田中康雄：シンポジウム 3「AD/HD の支援の仕方・支援の場」児童青年精神医学とその近接
領域 第 48 巻 2 号 P95-100 2007

田中康雄：教育講演 11 教育と児童精神医学にある協働を考える 児童青年精神医学とそ
の近接領域 第 48 巻 4 号 P463-468 2007

田中康雄：子どものメンタルヘルスがわかる本 明石書店 翻訳監修 2007

田中康雄：アスペルガー症候群 歴史と現場から究める 至文堂 座談会 2007

田中康雄：犯罪・非行の心理学 有斐閣 2007

田中康雄：非行一彷徨する若者，生の再構築に向けて ゆまに書房 2007

田中康雄：虐待と現代の人間関係 - 虐待に共通する視点とは - ゆまに書房 2007

田中康雄：質問紙法による AD/HD 症状の評価，齋藤万比古，渡部京太編，注意欠陥／多動
性障害 - AD／HD-の診断・治療ガイドライン，じほう社. 39-41, 2006.

田中康雄：広汎性発達障害との鑑別，齋藤万比古，渡部京太編，注意欠陥／多動性障害 -
AD／HD-の診断・治療ガイドライン，じほう社. 81-83, 2006.

田中康雄：親ガイダンス，齋藤万比古，渡部京太編，注意欠陥／多動性障害 - AD／H
D-の診断・治療ガイドライン，じほう社. 141-143, 2006.

田中康雄：学校との連携，齋藤万比古，渡部京太編，注意欠陥／多動性障害 - AD／H
D-の診断・治療ガイドライン，じほう社. 144-148, 2006.

田中康雄：地域連携システム・親の会・自助組織等，齋藤万比古，渡部京太編，注意欠陥
／多動性障害 - AD／HD-の診断・治療ガイドライン，じほう社. 149-152, 2006.

田中康雄：ADHD の明日を信じて. そだちの科学 6 号 2-9, 2006.

田中康雄：軽度発達障害の理解，月刊保団連，4-11, 2006.

田中康雄：発達障害の症状評価，精神科 8, 66-72, 2006.

田中康雄：発達障害を抱えながら越える10歳の節目，臨床心理学6, 481-486, 2006.

田中康雄監修：ADHD 医学モデルへの挑戦，明石書店，2006.

田中康雄監修：なぜADHDのある人が成功するのか，明石書店，2006.

B、口演

1、学会発表

川俣智路，金井優実子，田中康雄 2007 各ライフステージにおける発達障がい児・者支援を考える—養育者への自由記述形式による質問紙調査の分析と検討— 日本特殊教育学会第45回大会発表論文集 687 ポスター発表

俵谷知実，伊藤晋，大竹千代，佐藤昭宏，原野鮎子，米内山康嵩，田中康雄 2007 乳幼児期の発達障がい児支援を考える—養育者への自由記述形式による質問紙調査の分析と検討— 日本特殊教育学会第45回大会発表論文集 684 ポスター発表

米内山康嵩，俵谷知実，佐藤昭宏，伊藤晋，大竹千代，原野鮎子，田中康雄 2007 学齢期の発達障がい児支援を考える—養育者への自由記述形式による質問紙調査の分析と検討— 日本特殊教育学会第45回大会発表論文集 685 ポスター発表

伊藤晋，大竹千代，佐藤昭宏，俵谷知実，原野鮎子，米内山康嵩，田中康雄 2007 成年期の発達障がい者支援を考える—養育者への自由記述形式による質問紙調査の分析と検討— 日本特殊教育学会第45回大会発表論文集 686 ポスター発表

佐藤昭宏，金井優実子，田中康雄 2007 学校生活における発達障がい児支援を考える—養育者への自由記述形式による質問紙調査の分析と検討— 日本特殊教育学会第45回大会発表論文集 688 ポスター発表

川俣智路，金井優実子，田中康雄 2007 発達障害児・者の養育困難はライフステージの変遷とともにどう変化するか—養育者への自由記述形式による調査から生涯発達支援を考える— 第48回日本児童青年精神医学会総会抄録集 155 口頭発表

田中 究

A、誌上発表

1、論文

宮口幸治，伊藤智子，藤瀬慶喜，保坂卓昭，鈴木由美子，田中究，白川治，前田潔：総合病院精神科での児童虐待への関与が疑われた患者例の検討 精神医学 49(12)、1231-1237.2007

田中究：多重人格の臨床（普遍化する多重人格解離の精神病理）. 精神医療 44号. P. 8-17. 2006

三家英彦，吉住寿美香，袖岡里奈，田中究：入院環境の中で成長していった被虐待歴をもつ15歳女児. 日本児童青年精神医学会 47回総会抄録集 P164. 2006

竹中佳奈栄，岩本直子，北山真次，田中究：家族画の中に遺影を描いた「飲み込めない」